
悪魔と彼女の狂気

零煉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悪魔と彼女の狂気

【Nコード】

N9787S

【作者名】

零煉

【あらすじ】

此の話は、とある『悪魔』と此の世に住まう一人の『彼女』の狂気的な詩です。

詩、といっても結構物語風です。

それから、他サイトと重複して投稿します（――）

(前書き)

初めましての方は、お初にお目にかかります。

WAR DOLLからいらっしやった方は、こんにちは。

今回は詩・・・という感じの物語です。

初なので色々とぐちゃぐちゃでごめんなさい m ((m

それでも読んで下さる方は

ココロからありがとう申し上げます (((

彼女は深い傷を負っていました

こんな傷を負うくらいなら 何処かを骨折したり 何所か身
体の一部が壊死したりする方が

良かったのに

海底は奥が深く 底なんて未知数で 計り知れないように

其の傷もまた奥深く 底が見えずに 治す術なんて在りはし
ない……………

学校の帰り道 或る悪魔が彼女に囁きかけました

「其の踏切の真ん中に立っていてごらん？ 君の求める安らぎがもつすぐやってくるよ」

家の中で一人閉じこもり 其の彼女に悪魔は語りかけました

「筆箱の中を覗いてごらん？ 其の中に君を解放してくれる道具が入ってるはずだから」

でも彼女は悪魔の言うことに 耳を傾けませんでした

踏み切りの真ん中に佇んでいれば 何れ電車が来るだろうし

筆箱の中には カッターと鋏しか 入っていない

人間は 死ぬことが 怖いことから

彼女自身 死ぬことがとても怖かった

今の苦しみに比べて 死ぬという痛みの方が

嫌だ

或る時見かねた悪魔が 彼女に言い聞かせました

「君は此の世界が 大嫌いなのに

どうしてまだ迷っているの？

君は生まれてくる場所を間違えてしまったんだ

でも途中下車してもまた乗り直せるよ？ また切符を買いに行
こつよ

今度はちゃんと正しい切符を買って 正しい駅で降りよう

怖がることなんて無いよ 痛みなんて ほんの一瞬だから

注射を受けるほどの 小さな小さな痛みなんだからさ」

さあ、と悪魔は笑みながら 闇のような手を差し伸べます

それでも彼女は 首を縦に振りません

そのことに眉を顰めた悪魔は 筆箱の中からカッターと鋏を取り出しました

「君をもっと絶望させてあげるから もっともっと 死にたくなるようにしてあげるから

君の真実を 解き放つてあげるから

「

或る時 学校の皆が惨死していました

或る者は 腹を裂かれ

或る者は 首を飛ばされ

或る者は 脳に一撃を食らって 中身が流れ落ちていました

其の光景を目の当たりにした彼女に 傷は見当たりません

唯 目の前に 身体中を血塗れにした悪魔がいました

右手には 赤黒いカッターを

左手には 粘着質な鋏を持っていました

悪魔は恐ろしい笑みで 彼女を此処で待っていました

彼女は首を横に 全てを否定するような双眸で 息を荒げて
いました

「君は　　こういうの嫌いだったかな？　　ねえ？」

「違うよね？」

異様に静まりかえる　　廊下

其の怯えた彼女の目は　　否定　　の文字ばかり

何もかも信じられないと　　ありえないと　　全てが嫌なのだと

否定ばかりを繰り返して

「これは 君がやったんだよ？」

僕のことを散々悪魔呼ばわりするけども

僕は 悪魔じゃない

君だ」

ギョロギョロと動き始める彼女の目。

「君は 全てが恨めしくて 憎くて 異常なまでの 被害妄想をして……………」

人殺しにまで 手を染めた

君こそ 本当の

『悪魔』だよ

違っ違っ違っ違っ違っ違っ違っ違っ違っ違っ違っ違っ違っ違っ
違っ違っ違っ違っ違っ違っ違っ違っ違っ違っ違っ違っ違っ違っ
違っ違っ違っ違っ違っ違っ違っ違っ違っ違っ違っ違っ違っ違っ

「僕は もう一人の君

だから 僕が何かを殺したのなら

それは 君が何かを殺したのと同じだよ？

君が此の世界が嫌いなら 僕の世界へおいで

もう此の世界に 未練は無いだろう？

本当の 真実のココロを 今ここで曝け出しただろう？

死にたくないじゃなくてさ

復讐したいって 言えばもっと 此の世界に絶望できたのに

出来ないのなら 早く僕にその真実を伝えればよかったのに

んだのにね
そうしたら もっと苦しみを味わわずに済

そうしたら もっと早く死ねたのにさ
「

悪魔は 哀れみの目で 彼女を見ます

否定の文字が まるで緊張が解れたみたいに解かれていく

違う違う違う違う違う違う違う違う……

怯えた相貌が じつと悪魔を見詰めました

にい……と笑う其の悪魔は 闇の手を もう一度差し伸ばします

涙目になった彼女は ゆっくりと 力なく手を重ねました

いつの間にか

空が横を掠めていました

いつの間にか

気持ちよく 両手を広げていました

ふと 私は思いました

あの悪魔は 誰だったのだろうか

自分自身 君自身だと言っていたけれど

やっぱり 私には 人殺しなんて出来ないのだから

だから あの悪魔は 誰だったのだろうか

疑問に思ったのです

もつすぐ 地面が此の身体に 衝撃を与えるのでしょうか

でも 『痛みなんて ほんの一瞬だから

注射を受けるほどの
小さな小さな痛みなんだから』

「そう　だから全然　怖くなんか無くて

むしろ

甘い果実を手にするように

飢餓に苦しむ中　食べ物を一欠片でも見つけるように

何かに目覚めるように

それを 其の瞬間を

待ち望んでいるのです

それにしても 本当に

あの悪魔は

.....。

(後書き)

ここまで読んで頂きありがとうございます!!

この詩はここで終わり・・・かどうか私自身も分かっていません。

もしも、もしも続きが読みたい!!という希望があれば、

それは絶対に続編書きます!!

なので・・・皆様、よろしくお願い致します(一一)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9787s/>

悪魔と彼女の狂気

2011年10月8日23時55分発行